

溶接容器溶接補修基準KHKS0180 引用規格比較表

No.	引用規格の最新版		KHKS 0121 (2016)の引用規格		引用規格の改正内容等	対応
1	JIS G 3115	: 2022 压力容器用鋼板	JIS G 3115	: 2016 压力容器用鋼板	対象となる容器の材料規格として、引用されている。「用語及び定義」の項が追加され、それに伴い、条項番号が変更。機械的性質の表の表記(構成)が変更、試験片の種類が増えたが、従前から規定されているものの数値に変更なし。	最新版を引用する。
2	JIS Z 2244-1	: 2020 ビッカース硬さ試験-第1部:試験方法	JIS Z 2244	: 2009 ビッカース硬さ試験-試験方法	JIS Z2244は、JIS Z2244-1(試験方法)とJIS Z2244-2(硬さ値表)に分割された。KHKS0180 6.3硬さ確認試験で、旧JIS規格の「7 試験」が引用されている。改正内容は、「3 用語及び定義」が追加、そのため、条項番号が変更された。その他構成の変更などがあったが、試験内容に変更はなかった。	引用している条項の改正があったため、記述を修正し、最新版を引用する。
3	JIS Z 2320-1	: 2017 非破壊試験-磁粉探傷試験-第1部:一般通則	JIS Z 2320-1	: 2017 非破壊試験-磁粉探傷試験-第1部:一般通則	-	-
4	JIS Z 2343-1	: 2017 非破壊試験-浸透探傷試験-第1部:一般通則:浸透探傷試験方法及び浸透指示模様の種類	JIS Z 2343-1	: 2017 非破壊試験-浸透探傷試験-第1部:一般通則:浸透探傷試験方法及び浸透指示模様の分類	-	-
5	JIS Z 3104	: 1995 鋼溶接継手の放射線透過試験方法	JIS Z 3104	: 1995 鋼溶接継手の放射線透過試験方法	-	-
6	JIS Z 3211	: 2008 軟鋼、高張力鋼及び低温用被覆アーク溶接棒	JIS Z 3211	: 2008 軟鋼、高張力鋼及び低温用被覆アーク溶接棒	-	-
7	JIS Z 3700	: 2022 溶接後熱処理方法	JIS Z 3700	: 2009 溶接後熱処理方法	KHKS0180の7 溶接補修の方法(14)で「9.2 局部加熱による後熱処理方法」が引用されている。改正内容は、用語(被溶接後熱処理部)の追加、それに伴い、記載の変更がされた。また、均熱幅の図が追加された。引用されている条項について、「9.2 局部加熱による溶接後熱処理方法」と名称が改正された。	引用している条項の改正があったため、記述を修正し、最新版を引用する。
8	JIS Z 3801	: 2018 手溶接技術検定における試験方法及び判定基準	JIS Z 3801	: 1997 手溶接技術検定における試験方法及び判定基準	KHKS0180 4.3.3溶接補修施工者で、資格要件として本規格が引用されている。引用規格の項が追加された等の構成が変更された。資格の位置づけに変更はない。	最新版を引用する。
9	WES 8102	: 2021 溶接士技量検定基準(石油工業関係)	WES 8102	: 2012 溶接士技量検定基準(石油工業関係)	KHKS0180 4.3.3溶接補修施工者で、資格要件として本規格が引用されている。構成の変更、用語を関係するJISに合わせる、外観試験の評価基準及び曲げ試験方法に対応するJIS規格に合わせる等の改正が行われた。資格の位置づけに変更はない。	引用している条項番号に変更があったため、記述を修正し、最新版を引用する。
10	WES 8103	: 2019 溶接管理技術者認証基準	WES 8103	: 2016 溶接管理技術者認証基準	KHKS0180 4.3.2溶接監督技術者で、溶接補修施工者の監督をする者の資格要件として、引用されている。受験資格の緩和、受験条件の簡素化等の改正が行われた。資格の位置づけに変更はない。	最新版を引用する。